



@幸せな贈り物

それでも 希望が ある理由は…



ライオンの歯 「絶望というライオンの歯に心臓を食い取られてみた者だけが、希望をハンティングする資格がある」小説家イ・ウェス氏が挑戦する20代の青春に投げかけたことばです。

絶望するしかない人生の極限状況が、ときには新しい機会を与えることもあります。ある死刑囚が死刑台の上に上がるようになりました。彼には、最後の5分が与えられました。彼が28年の人生を生きてきながら、5分がそんなに大切に感じられたことは初めてでした。彼は自らやや低く話しました。

「5分をどのように使うのか。まずそばにいる他の死刑囚と看守に一言ずつお別れのあいさつをするのに2分、生きてきた人生を整理してみるのに2分、残り1分は広大な大地を振り返ろう」

彼がお別れのあいさつをして、家族のことを少しの間思う間に2分の時間が流れました。

彼は、もう3分しか残っていないという考えで、目の前が真っ暗でした。過ぎた28年間、自分の時間を惜しみながら使うことができなかつたことを後悔しながら、またもう一度生きることができるならば、瞬間ごとに文章を書きながら生きたいという考えを切実に思いました。

ところが、まさにその瞬間、ある軍人が皇帝の特命を持ってきたのです。彼に赦免が与えられたのでした。彼は、自由の身になって、自分が感じた時間の大切さを忘れないで、燃える情熱で文を書き行きました。彼がまさに世界的な文学傑作として呼ばれる『罪と罰』を書いたロシアの文豪ドストエフスキーです。

彼は当時の経験を土台に「人生は5分の連続だ」ということばを残しました。

このように、人間の生活が美しい理由の中の一つは、最後まで「希望」という綱を放さないためでしょう。それで、多くの人と宗教が終わりの時代の希望とパラダイス *paradise* を歌うのかもしれませんが。しかし、私たちの現実はそのようではありません。文化と科学が発達して、人々の生活が便利になるほど、理解できないくらい世の中は混乱していて、幸せの質は落ちるように思えます。

聖書はこういう終わりの時代の生活について事実を知らせています。

「終わりの日には困難な時代がやって来ることをよく承知しておきなさい。そのときに人々は、自分を愛する者、金を愛する者、大言壮語する者、不遜な者、神をけがす者、両親に従わない者、感謝することを知らない者、汚れた者になり、情け知らずの者、和解しない者、そしめる者、節制のない者、粗暴な者、善を好まない者になり、裏切る者、向こう見ずな者、慢心する者、神よりも快楽を愛する者になり、見えるところは敬虔であっても、その実を否定する者になるからです。こういう人々を避けなさい。こういう人々の中には、家々に入り込み、愚かな女たちをたぶらかしている者がいます。その女たちは、さまざまの情欲に引き回されて罪に罪を重ね、いつも学んではいるが、いつになっても真理を知ることのできない者たちです。」(Ⅱテモテ 3:1~7)

そして、マタイ 24 章 4 節から 8 節にはこのように言われています。

「そこで、イエスは彼らに答えて言われた。「人に惑わされないように気をつけなさい。わたしの名を名のる者が大ぜい現われ、『私こそキリストだ』と言って、多くの人を惑わすでしょう。また、戦争のことや、戦争のうわさを聞くでしょうが、気をつけて、あわてないようにしなさい。これらは必ず起こることです。しかし、終わりが来たものではありません。民族は民族に、国は国に敵対して立ち上がり、方々にききんと地震が起こります。しかし、そのようなことはみな、産みの苦しみの初めなのです。」

本当にどう思いますか。おそろしいほど世の中は聖書のみことばのとおりになっていきつつあります。しかし、それでも私たちに希望がある理由は「答え」があるためです。

永遠な解答 人間には避けられない3つの終末があります。

個人の終末、時代の終末、地球終末がそれです。それでも、私たちに希望があるのは、聖書が「永遠な解答」を提示してくれているためです。

その永遠な解答はこのようです。

人間の永遠な幸せは、人間の努力以前に創造原理によって始まります。

魚が水の中に、木がその根を地におろすとき、はじめていのちが存在するように、

人間は、やはり神様を離れては一瞬も生きられないように創造されました。

すなわち、人間は神様とともにいるとき、はじめて幸せになるように創造されたのです。

しかし、人間が神様を離れた以後

人間は罪人になって、ことばにできない飢え渴きと葛藤、不幸の中に陥るようになりました。

しかし、さらに怖い事実、その背後に今日もサタンという暗やみの存在が人間をだましながらか支配しているという事実です。

こういう根本的な生き方に穴がけられているから、根こそぎ抜かれた木のように、水を離れた魚のように、良い肉的な所有と精神的な富を持っていても、満足がなくて虚しいのです。

それで、神様が直接人間が解決できない問題、そして3つの終末の問題を解決して下さることを決意されました。

その道を知らせるのが聖書が語っている「福音」です。

そして、その福音の主人公がまさにイエス・キリストです。

イエス・キリストを信じて、私の人生の主人として受け入れれば、直ちに永遠な神様の子ども、天国の民になります。

そして滅びと失敗の根源であるサタンの権威から永遠に解放されます。

呪いと災いをもたらす汚い罪の鎖、欲望の鎖、絶望の鎖から、はじめて解放されるようになるのです。

神様の子どもには個人終末、時代終末、地球終末を越える永遠な世界が保障されます。

これが聖書を通して人間に与えようと願っておられる神様の贈り物です。

今日、その贈り物があなたの人生に永遠な希望と幸せをもたらすでしょう。

なぜなら、**あなたの人生は大切に、神様の願いはあなたの永遠な幸せであるからです。**

人間に向かった神様の みこころと願い

イエス様が教えられた主の祈りの三番目の祈りの内容は「みこころの天になるごとく、地にもなさせたまえ」と祈りなさいということです。人間に向かった神様の願いとみこころは、いくつかの聖書のみことばを通して簡単に確認してみることができます。

民数記 6:24~26 「主があなたを祝福し、あなたを守られますように。主が御顔をあなたに照らし、あなたを恵まれますように。主が御顔をあなたに向け、あなたに平安を与えられますように。」

エレミヤ 29:11 「わたしはあなたがたのために立てている計画をよく知っているからだ。——主の御告げ——それはわざわいではなくて、平安を与える計画であり、あなたがたに将来と希望を与えるためのものだ。」

ヨハネ 3:16 「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」

ヨハネ 10:10 「盗人が来るのは、ただ盗んだり、殺したり、滅ぼしたりするだけのためです。わたしが来たのは、羊がいのちを得、またそれを豊かに持つためです。」

ヨハネ 20:31 「しかし、これらのことが書かれたのは、イエスが神の子キリストであることを、あなたがたが信じるため、また、あなたがたが信じて、イエスの御名によっていのちを得るためである。」

1テモテ 2:4 「神は、すべての人が救われて、真理を知るようになるのを望んでおられます。」

ヨハネ 14:6 「イエスは彼に言われた。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません。」

ヨハネ 1:12 「しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった。」

ヨハネ 5:24 「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことがなく、死からいのちに移っているのです。」

Ⅲヨハネ 1:2 「愛する者よ。あなたが、たましいに幸いを得ているようにすべての点でも幸いを得、また健康であるように祈ります。」

マタイ 28:20 「見よ。わたしは、世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます。」

神様は神様の子どもになった人々を通して絶望の現場が生き返ることを願っておられます。そして、希望をなくした人々が力を得ることを願っておられます。神様がくださる力で世の中で堂々と勝利することを願っておられます。そのために最後までともにいることを願っておられます。私を通して他の人が生かされて、幸せになり、ともに天国の祝福を味わうことを願っておられます。

「私たちの主イエスが再び来られるとき、御前で私たちの望み、喜び、誇りの冠となるのはだれでしょう。あなたがたではありませんか。」

1テサロニケ 2:19

これが最も美しい人生、キリストの弟子の足跡です。

神様の子どもになる

受け入れの祈り

愛の父なる神様。私は罪人です。今まで神様を離れ、サタンの支配の下に縛られて、奴隷のように生きて来ました。しかし、今、この時間、イエス様を私の救い主、私の神様、私のキリストとして受け入れます。イエス・キリストは、神様に会う唯一の道であり、サタンの権威を打ち砕かれ、すべての罪とのろいと災いから私を解放して下さったキリストであると信じます。いま、私の中に入れて来てくださり、私の主人になってください。今から私の生涯を細かく導いてください。イエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

神様の子ども

毎日の祈り

父なる神様、イエス・キリストによって神様がいつも私とともにおられて、導かれることを感謝します。今日も、すべての生活の中で、神様の子どもになった祝福を味わうように、聖霊で満たしてください。私の家庭と現場と行くところごとに福音を邪魔して困らせるすべてのサタンの勢力を権威あるイエス・キリストの御名で縛ってください。どんなこと、どんな問題でも、解決者であるイエス・キリストに任せて、その中で神様のより良い計画を発見しながら、聖霊に導かれる生活になりますように。そして、私の生活を通してイエス様がキリストであるということがあかしされ私の現場に神の国が臨むようにしてください。毎日、私の生活の中で神様の願いである世界福音化の契約を握って勝利できますように。今も私とともにおられるイエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン



まことの 国籍

真の価値を知っている人たちは、大きなことに執着せず、小さいことに意味を与えて、それを大切に感謝する。『野草の手紙』で、ファン・テグオン氏は監獄生活の中でも、監獄の庭で育つ雑草の中で健康を生かす知恵を見つけることもした。

ある人はからだに良いという草を手に入れるために、遠くブラジル辺境地にたくさんのお金をかけて行ってきのに、ある日見たら彼の事務室がある庭で、その草が育っていたという文章を見た。祝福も近いところであって、問題も小さいことから始まる。それでも、そばにある時はそこまで知らず、味わうことができないが、問題がくればそれを惜しんで懐かしがるのが普通の人の人生であるようだ。アメリカ生活を長くした信徒がおられるのだが、楽しく生きる生活の楽しみに従っていたら、それほど外国という気がしなかったし、自由の中で当然受けて味わわなければならないアメリカの国籍を確保しないまま時間を送った。その理由は、そのときすぐは、国籍がなくても不便でなかったためだった。しかし、人の事はわからないもので、偶然な機会にやってきた小さい問題で大きな被害を受けるようになったが、結局、小さい涼しい風が台風に変わったようだった。

自分の危機は自ら管理しなければならないのに、そこまで手を回す暇もなく問題に包まれて、国家もその問題を解決できない困難が現れるようになった。一枚の紙に過ぎない国籍だが、もしそれがあったならば、より国家の保護と助けを受けただろうが、国籍を確保できない者はあきらかに外国人の身分なので、自由と権利を見つけて主張するには力不足だった。

ため息混じりに戻ってきた母国は、帰りたい場所だったが、すでに歳月が長く過ぎたので、人の家に来たように不便なだけで、どもりがちな発音と文化の差を実感しながら、故郷を旅人として時間を送るしかなかった。

しかし、神様はご自分の民を断じて手放されない。その危機の時間に、神様は福音を持った信徒に会う最高の祝福を与えられ、その中でその方は本当に重要な国籍を見つけるようになった。強い国、良い国が解決できない永遠な神の国の国籍を値なしに受けるようになったのだ。すべてを失ったようであったが、最高のことである福音をくださるためにひとまず持ったものを捨てるようにする神様の計画をまだ簡単に受け入れない場合もある。しかし、重要なのは、天国の国籍を持った者だけが天国の生活を味わえるという事実だ。福音を持った者は新しく始められる。遠いと思えるところも私の側から見る時に遠い道だが、ある日その道を苦心して行って振り返れば、一步の道にしかならないだろう。すでに過ぎ去った時間は私のことではない。肉的にのがしたことは、神様ふところに置かれたと信じて、いまは新しく開いてくださる答えの祝福に向かって、くださった祝福を思いながら小さい感謝を回復しなければならない。イギリスの説教者スポルジョンの告白のように、ロウソクのあかりを感謝すれば暗い夜の月の光をくださって、月の光を感謝すれば明るい真昼の太陽の光をくださり、太陽の光を感謝すれば永遠に光る天国の栄光の光をくださるということだ。

世の中のことはいくら持っても満足することがないが、天国の小さいことは、世の中のすべてのことを持ったより価値がある。祖国で発見した契約の祝福の中で、まことの国籍を持った信徒になって、当然に失うことを失ったことで、当然受ける祝福を受けということだろう。なぜなら、神様はご自身の子どもを地の果てでも捜し出して福音の祝福を味わうようにされるためだ。

チョン・ヒョングク (福音コラムニスト)

*相談したい方はこちらまでどうぞ